



避難情報が変更されました

災害対策基本法の一部改正により、避難情報が見直されました。

変更前

| 警戒レベル | 避難情報など |
|-------|----------------------|
| 5 | 災害発生情報 |
| 4 | 避難指示（緊急） 避難勧告 |
| 3 | 避難準備・高齢者等 避難開始 |
| 2 | 大雨・洪水・高潮 注意報（気象庁） |
| 1 | 早期注意情報（気象庁） |



変更後

| 警戒レベル | 避難情報など | とるべき行動 |
|-----------------------|----------------------|--|
| 5 | 災害発生 または切迫 | 緊急安全確保 命の危険 直ちに安全確保 |
| 警戒レベル4までに必ず避難！ | | |
| 4 | 災害の おそれ高い | 避難指示 危険な場所から 全員避難 |
| 3 | 災害の おそれあり | 高齢者等避難 危険な場所から 高齢者等は避難 |
| 2 | 気象状況 悪化 | 大雨・洪水・高潮 注意報（気象庁） 自らの避難行動 を確認 |
| 1 | 今後気象 状況悪化 のおそれ | 早期注意情報 （気象庁） 災害への心構え を高める |

変更のポイント

①警戒レベル3「高齢者等避難」

警戒レベル3は、避難を促す対象を明確にするため、「高齢者等避難」に名称を変更しています（高齢者等の「等」には障がいのある方など避難に時間を要する方や避難を支援する方なども含まれます）。高齢者等以外の方も必要に応じ、普段の行動を見合わせる、避難の準備をする、危険を感じたら自主的に避難するなどの行動をとってください。

②警戒レベル4「避難指示」

避難のタイミングを明確にするため、警戒レベル4の避難勧告と避難指示（緊急）を「避難指示」に一本化しています。これまで避難勧告を発令していたタイミングに、避難指示を発令します。

③警戒レベル5「緊急安全確保」

災害が発生・切迫し、避難場所などへの避難が安全にできない場合に、自宅や近隣の建物で緊急的に安全確保するよう促す情報を、警戒レベル5「緊急安全確保」として位置づけています。ただし、災害が発生・切迫している状況において市が災害の状況などを確実に把握できるものではないなどの理由から必ずしも発令される情報ではありません。

避難所の混雑状況が確認できます

狛江市は株式会社バカコンと協定を締結しました。

パソコンやスマートフォンなどから、避難所の位置や開設・混雑状況を確認することができるようになりました。

混雑状況が確認することで、分散避難、コロナ禍での3密回避につながります。



リンクはこちら

「緊急安全確保」が発令される時代、避難について考えておこう

大矢根 淳氏（専修大学教授）寄稿

2019年台風第19号は「令和元年東日本台風」と命名されるほど全国規模で被害甚大、狛江市でも床上・床下浸水約300棟を数え、西和泉には自衛隊が派遣されて道路啓開が行われた。梅雨期の今、線状降水帯が懸念され、雨の度にこの台風が様々に思い起こされるのではないだろうか。市役所ホームページ掲載の『令和元年東日本台風 狛江市の記録』をこの機に是非、振り返っておきたいところだ。

狛江市では、こうした場合の避難所の開設・混雑状況が、パソコンやスマートフォンで確認できる新しいシステムが稼働することとなった。このようなシステムが適切に運用されれば、避難所に行ったけれども満員で中に入らなかった、ということは数字上はなくなるはずだ。しかしながら、そうしたシステムの設計にはそもそものってこない様々な事情があることもあらかじめ考えておきたい。

新システムのネット情報に全ての人がアクセスしている（できる）わけではないから、状況を知らずに押し寄せる人々もいることだろう。最寄りの避難所が混雑していることがわかっていても、それでは我が家にとって

の次善の避難所はどこなのか。近所の高層マンション、安全な場所にある知人宅、あるいは車中泊や在宅避難なども耳にする。分散避難が勧められている。避難所での過ごし方、場合によっては数日に及ぶかもしれない避難生活はどのようになるのだろうか。そこまで考えた場合、用意すべきモノや心構えは？ごく近所の見知った方々と協働することはできるかもしれないが、少し離れた避難所に初めて行ったとしたら？そうした事々を逡巡して避難をためらう人も出てきそう。

そもそも避難所と言っても…。指定避難所、自主避難所、臨時開設される避難所、福祉避難所等々、自身・家族の事情に即して、どのタイミングで、どこに身を寄せるべきなのか。一人悶々とするのではなく、家族や友人と、また、町会・自治会などで、机上・オンラインで協議してみることをお勧めしたい。そして、市の防災訓練や防災カレッジにも参加してみるのもよいだろう。



専修大学人間科学部 社会学科 大矢根 淳 教授

